

平成30年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

重要度		教務部 平成30年度重点目標																			
		項目1	目標	2020年度の入試改革、指導要領改訂を見据え、検定の取得や道徳教育、プログラミング教育の準備など、生徒の進路実現を確実なものにするための学校環境の整備を行っていく																	
達成度	項目1		達成方法	教務規定全体を見直し、現規定では対応が難しいものや変化が必要なものを洗い出し、変更、加筆、修正などを行っていく。 日課時限の変更や追認定試験のあり方、帰国生への対応なども視野に入れておく。																	
		項目2	目標	SGHアソシエイト校にふさわしい生徒を育てるために、生徒部や進路部との連携のとれた学校づくりをおこなう																	
項目2	達成方法		タブレットやICTの活用を進め、スタディサプリの活用や外部検定取得、e-portfolioに対応するため、スタディサプリの活動メモの記載などを活用した 指導要録や調査書の発行などを研究していく。																		
	項目3	目標	年間予定を考え、海外研修旅行や宿泊行事などの活用など、生徒にとってより良い学びを提供できるようにする																		
項目3		達成方法	昨年に引き続き、海外研修旅行や宿泊行事について検討を続け、平成32年度をめどに制度化していく。 年間予定全体も検討し、学校行事の再整備も考えていく。																		
			項目1		項目2		項目3														
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度														
部署コード/平均		3.77	2.69	3.23	2.15	3.69	3.00														
1		4	3	3	1	4	3														
2		4	4	3	3	4	4														
3		4	3	4	2	3	3														
4		4	3	2	2	4	3														
5		4	3	3	2	4	3														
6		3	1	2	1	3	1														
7		4	2	4	3	4	2														
8		3	3	3	2	4	4														
9		4	2	3	1	4	2														
10		4	3	4	3	4	3														
11		3	3	3	2	3	3														
12		4	3	4	3	4	4														
13		4	2	4	3	3	4														
<p>&lt;取組状況・次年度への課題など&gt;                      達成度は総じて低い。                      検定等の取得は学年ごとに達成目標と取り組み方が異なり、学校全体の方針統一が改めて必要である。道徳教育も評価化にあたり、茶花や礼法、ピアと道徳教材の使用などに整理が必要である。                      プログラミング教育が各教科との融合の中で始まっており、SGHアソシエイト校として行ってきた様々な活動もSDGs教育を初めとして、様々な試みはそれぞれ重要で効果的なものを持っている。                      今行われているプログラムや教育の中には、昇華できるものもたくさんあるが、現状はバラバラなままであることが弱点である。学校全体の意思統一をさらにはかるべきである。                      各部には各部のよさがある。しかしこの部間を横断する企画室との連携があまり図られていないので、新しい試みは増えるが融合していくことが難しくなっているようにも思える。                      2020年度に始まる海外研修を含めた宿泊行事は、今までの様々な試みを、教務部と学年とで整理し昇華していくことのできるプログラムとしていきたい。                      新しい調査書の中で求められている生徒の主体的な活動の記録に向けて、気づきや活動そのものの記録媒体としてのタブレット使用など、生徒の進路実現を確実なものにするための動きは学校全体の課題である。学校全体の方針がぶれないようにするためには、各部の連携はさらに進めるべきである。                      学校行事の運営が、定例でなく、かつ学年任せにならないようにするためには、柔軟性を失わない程度の教務規定の厳格化が必要である。                      考査の時限変更につき、日課時限も次年度に変更する。考査のあり方や評価方法などを見直しつつ、生徒主体の学校となるように考えていきたい。</p>																					

平成30年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

進路部 平成30年度重点目標(学力向上に向けて)												
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない  達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	生徒が自ら学ぶ授業の実践									
		達成方法	妻中サクセスの身体化をすべての教育活動で図る。 タブレットや電子黒板などのICT機器の有効利用を図り、学び合いの機会を設ける。反転学習を実践し研究する。 授業の6要素「ねらい、メモ、反応、発表、質問、振り返り」の学習姿勢を身体化し、思考を伴う能動的な活動ができる授業を実践する。									
	項目2	目標	生徒の進路意識改革									
		達成方法	建学の精神や校訓を身体化し、学ぶ意味をすべての教育活動で考えさせる。									
			進路ガイダンスを計画的に実施する。 年5回の「勉強マラソン」を継続する。									
	項目3	目標	教師の受験指導力アップ									
		達成方法	大学入試問題の解き合いと、検討会を実施する。 大学入試に対応した講習を充実させる。									
	項目4	目標	中学の基礎基本事項の定着									
		達成方法	MMT(Monday Morning Test)を継続して実施し、成績不良者への指導を徹底する。 基礎基本事項を精選し、その定着に教科担当者だけでなく学年団全体で取り組む。									
	項目5	目標	2020入試改革への対応									
		達成方法	各種研究会や研修に参加して、最新情報を収集する。									
			英語外部検定試験の大学入試利用に対応するため、高校3年間を見通した英語教育指導プランを確定する。 e-portfolioに対応するため、スタディサブリの活動メモの記載について研究し、実践する。									
			項目1	項目2	項目3	項目4	項目5					
			重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度
	部署コード/平均		3.64	3.00	3.64	3.27	3.36	3.09	3.64	3.09	3.82	2.55
1		3	3	3	3	1	3	3	3	4	3	
2		3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	
3		4	4	4	3	4	4	4	4	4	3	
4		4	3	4	4	4	3	4	4	4	2	
5		4	2	4	3	2	1	4	1	4	2	
6		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
7		4	3	4	4	4	4	4	4	4	3	
8		4	3	4	3	4	3	4	3	4	2	
9		3	3	4	4	4	4	3	3	4	2	
10		4	4	4	4	4	3	4	3	4	3	
11		4	2	3	2	4	3	4	3	4	3	
<取組状況・次年度への課題など> 項目1については、概ね重要度は共有されているが達成度が低い。 項目2については、重要度及び達成度も概ね良好であった。 項目3については、評価が分かれている。重要でないと考えている部員が少なからずいる。 項目4については、重要度は概ね共有されているが、学年により達成度に関差がある。 項目5については、重要度が最も高いが達成度が一番低い。入試改革に不安を抱えている教員が多いと思われる。 次年度は、重要度及び達成度が高まるよう努力したい。 変化の激しい時代を力強く生き抜く生徒を育成するため、今後も積極的に授業改革を推進し、「学力の3要素」が着実に身につく教科指導の実践に努めていく。												



平成30年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		生徒部 平成30年度重点目標(生きる力育成に向けて)																	
重要度	項目1	目標	スーパーグローバルハイスクールの理念を追求し、必要なスキルアップを実現する																
		方達成	文化祭等各種行事の実施にあたって、グローバル社会において求められる資質は何かを幅広く追及し、それを企画に活かしていく。																
達成度	項目2	目標	校訓「恥を知れ」を生徒指導の基本的方針とし、挨拶の励行、マナー、モラルの意識向上並びに、校則等のルール遵守を基本的な生活習慣として、実践することを目指す。																
		方達成	登校時指導、日々のHR指導、集会等を通じて挨拶の励行、登下校マナー等を日常的にしっかりと身につくまで指導を徹底する。全教員が丁寧な対面教育を心がけるよう徹底する。																
重要度	項目3	目標	道徳教育、ピア・サポート学習はカリキュラムに則り、全校でベクトルを統一する。「豊かな心」を養い、自他共に誇りをもてる学校づくりを目指す。																
		方達成	道徳・LHR・集会等の指導を通じて人間的成長を促し、「思いやり」「寛容」の心を育て、心豊かな生徒を育てる。他者から共感や信頼を得られる人材の育成を目指し、成熟した人間関係の構築の基礎を習得する。																
達成度	項目4	目標	教育活動において「目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢」を培える場を多様に配置する。																
		方達成	学園祭や合唱コンクール、生徒会活動などを通じて、「忍耐力」「協調性」「達成感」を学ばせ、自己肯定感を高めて、主体的に生き活きと目標に向かって努力する力を培う。同時に、困難な局面を克服し強く生き抜く力を育成する。																
		項目1	項目2		項目3		項目4												
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度										
部署コード/平均		3.38	2.85	3.77	2.85	3.54	2.77	3.77	3.23										
1		3	2	3	3	3	2	3	4										
2		4	3	4	3	4	3	4	3										
3		3	2	4	3	4	3	4	3										
4		3	2	4	2	4	2	4	2										
5		3	3	3	3	2	3	3	3										
6		3	3	4	2	3	2	4	3										
7		4	2	4	3	4	3	4	4										
8		3	3	4	3	4	3	4	3										
9		4	4	4	3	3	3	4	4										
10		4	3	4	3	4	3	4	3										
11		4	4	4	3	4	4	4	4										
12		3	3	3	3	3	2	3	3										
13		3	3	4	3	4	3	4	3										
14		3	3	4	3	3	3	3	3										
15		3	3	4	3	3	3	4	3										
16		4	3	4	3	4	3	4	3										
17		4	3	4	2	4	3	4	3										
18		4	3	4	2	4	3	4	4										
19		3	3	4	3	4	3	4	3										
<p>&lt;取組状況・次年度への課題など&gt;</p> <p>項目1:本校教育方針の柱の一つである「グローバル」の視点を常に念頭に置き、各種学校行事の企画に活かしていくよう指導した。文化祭等の具体的展開においては、生徒の幅広い興味と関心を「グローバル」に集約することは困難としても、企画段階においてグローバル社会への対応を意識するという方向性には一定の成果があった。</p> <p>項目2:校訓「恥を知れ」を生徒指導の基本的方針として、マナー・モラル・ルール遵守を重要施策として指導してきた。登校時、HR・集会等機会をとらえて指導し、一定の効果をあげることはできたが、個々にはまだばらつきがあるのも事実であり、今後とも引き続き重要な課題として指導を継続していく。</p> <p>項目3:道徳教育、ピア・サポート学習などを通じて「豊かな心」を育て、幅広い人間性教育に取り組んだ。道徳教育の一環として茶道・華道など日本の文化を学ぶとともに、他者に対する思いやり、寛容の心を育てるよう意を用いてきた。個別の成果としては不十分な面もあったが、深刻ないじめや重大な不測の事態を防ぐことができた点など一定の成果をあげることができた。</p> <p>項目4:目標に向かって、主体的に生き活きと努力する力、困難を乗り越え強く生き抜く力を育成すべくいろいろな機会をとらえて指導してきた。学園祭や合唱コンクールなど期待以上の活力と向上心をもって活動する姿に接することができた。</p> <p>項目2とともに、重点目標として推進してきたが、達成度も各項目中最も高いものと評価できる。</p>																			

平成30年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		入試広報部 平成30年度重点目標											
		項目1		項目2		項目3		項目4					
重要度	達成度	目標	本校の目指す学校像、アドミッションポリシーに基づいた本校の実践・取り組みを広く、正確に外部に伝える。										
		達成方法	教員全員による塾訪問および入試広報部員を中心とした外部学校説明会での広報活動を通して、具体的な情報を発信していく。 本校主催の学校説明会や学校見学の手法を見直しつつ、入試区分ごとの入試説明会を実施する。 Webサイトをより効果的に活用し、本校の全体像をより多くの方に理解していただく。										
[4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	[4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	目標	現行のホームページ内容を精選し、リニューアルする。										
		達成方法	Web登録を活用し、説明会予約や入試の出願、外部への情報発信を効率的に行えるようにする。 HPやFacebook、ブログ等の媒体を多角的に活用した広報活動を年間を通じて実践する。 SGH構想調査目標に基づき、増加傾向にあるGLC入学希望者のさらなる増加を目指す。										
		目標	海外での広報活動を継続しつつ、海外赴任者向け雑誌や海外説明会への資料参加をさらに積極的に行う。										
		達成方法	海外帰国生入試選抜およびグローバル入試に導入した4技能英語能力検定試験のスコアや資格に関する情報発信をする。 海外帰国生入試・グローバル入試における英語試験の改善を図る。 学校全体として、より組織的に入試広報活動に当たれるよう企画運営をする。										
		目標	入試広報部として、外部説明会や研修会、また他校との情報交換や情報収集を継続する。										
		達成方法	校内の様々な情報を整理し、説明会等の資料として活用する。										
		項目1	項目2	項目3	項目4								
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度				
部署コード/平均		3.77	3.15	3.77	2.85	3.69	3.00	3.77	2.62				
1		3	3	4	2	4	3	4	2				
2		4	3	4	3	4	4	4	2				
3		4	3	4	3	4	3	4	2				
4		4	4	4	4	4	4	4	4				
5		4	3	4	3	3	3	3	3				
6		4	2	4	2	4	3	4	2				
7		4	4	3	4	4	3	4	4				
8		3	3	3	2	2	2	3	2				
9		3	3	3	2	3	2	3	1				
10		4	3	4	3	4	3	4	3				
11		4	3	4	3	4	3	4	3				
12		4	3	4	3	4	3	4	3				
13		4	4	4	3	4	3	4	3				
<p>&lt;取組状況・次年度への課題など&gt;</p> <p>【項目1】校内外の説明会を中心に本項の目指す学校像を伝えつつ、2019年度入試の形態にも重点を置いて広報活動を行った。結果として受験生増、複数回受験者増につながり評価できる。海外帰国生入試とグローバル入試に関しては英語の外部資格試験活用と、スピーキングテストを導入したため、サンプルビデオや質問例等をWebサイトを通じてお知らせしたものの、より丁寧な説明が課題である。また、12月に実施したグローバル、算数、新思考力の各入試説明会では入試体験も用意し、受験生の不安に応えられたと判断する。</p> <p>【項目2】Webサイトをリニューアルし、情報発信に心がけた。9月以降、受験生登録の誘導に力を入れ、例年以上の登録数を確保できた。2月入試の出願増につながったと考える。ただし、発信の仕方には内容のバランスを含め、課題と言える。</p> <p>【項目3】海外広報は、アジアからUSA、UKでも行うことができた。海外帰国生の入試を一部変更したこともあり、11月の入試では受験生が大幅に増えた。一方で、英語外部資格試験の扱いにより透明性を持たせ、受験生が安心して受験を考えられるように、さらに改善をする必要がある。</p> <p>【項目4】年間を通し、多くの外部説明会、研修会へに出席をした。しかし、なかなか特定の広報部員しか参加できず、そのフィードバックをより効果的に行うことが課題である。</p>													



平成30年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		企画室 平成30年度重点目標																	
<b>重要度</b> [4] 大変に重要 [3] やや重要 [2] あまり重要でない [1] 重要でない  <b>達成度</b> [4] 75～100% (ほぼ達成した) [3] 50～74% (まあまあ達成した) [2] 25～49% (あまり達成できなかった) [1] 0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	生徒の成長の場としての学校、授業を提供するためのしなやかさを構築する。																
		達成方法	「妻中サクセス」の継続(メモをとる、もぎとる、振り返る、時間を区切る、発表するなど)と、授業方法・スタイルを提案する。																
			教員同士が相互に授業見学をいつでも気軽にできるようなしなやかさを。授業参観週間において研究授業の設定を全教員でおこなう。																
			EMセンターのリニューアルについて、Future Class Roomの授業空間のデザインをICT委員会と連携しながらすすめていく。																
	項目2	目標	『大学受験に向けての自己の蓄積、e-ポートフォリオへの対応』のための準備と教員の啓蒙																
		達成方法	「わかば」の書き方指導から回収・チェックまで、「わかばマニュアル」をつくり、中学のうちに振り返りの習慣をつける。																
			「何を記録するか」を整理し、全員に共通する記録項目と、それぞれの活動でつけられる「能力」を一覧にまとめる。																
			授業や考査でどのような能力を育て、どのように評価するのか、ルーブリックも含めて各教科各分掌との連携を強化する。																
	項目3	目標	日常が変わるような英語活動の充実																
		達成方法	とにかく学内で英語を使う機会を増やすしなやかさを、職員室の中の呼び方など、年度が変わって中途半端になっているところを再徹底する。																
			EVAなどの生徒主体の活動を促進し、生徒同士のインタラクティブな学びをサポートする。																
			Mr.NixonのOne Minute Englishだけでなく、各学年に合わせたリスニングプログラムができるように外国語科と連携する。																
		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		3.50	2.00	3.25	2.25	3.75	2.25												
1		3	3	3	3	3	3												
2		4	2	4	2	4	2												
3		3	1	3	2	4	2												
4		4	2	3	2	4	2												
<p>&lt;取組状況・次年度への課題など&gt;                      達成度が総じて低くとどまっているのは、年度当初に目標として挙げたことが細かく多岐にわたっており、企画室として「企画」して「実行」するところまで手がまわらなかったということは否めない。やるべきことであることは事実だが、それを各学年や各分掌が動けるように促すのが企画室の役割であるので、毎年の課題であるが、企画室で話していることをいかに全体に共有し、共感し、協働できるのかという部分がしっかりしていないからだと考える。それを進めていく上で急務と言えるのが「大妻中野で育てたい力」と「ESDに向けてのカリキュラムマネジメント」を包括するような指標を策定することであると考え。次年度からの実施に向けて年度内にある程度固めることが必要であると共に、次年度は「しかける」ことに集中して各種企画を各方面に落とし込みたいと考える。                      また、English Broadcastについて、今年度は新しいNativeの先生を含めて週に2回の新しい放送プログラムを始めることができた。EVAも新たに昼休みの放送番組を企画中である。                      次年度、学年ごとに異なるリスニングプログラム(Comprehension Development(仮称))の実施を検討中である。</p>																			

平成30年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		国際部 平成30年度重点目標																							
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	項目1	目標	SGH_Community校として、グローバル化に対応した教育をさらに深く研究し、“Beyond School”を合言葉に、国内外の様々な組織と連携し、各種プログラムの充実とその成果の本校教育全体への還元を進めていく。それにより、文部科学省へ申請した目標の達成に資する。																						
		達成方法	UNESCO School への加盟認可を前提に、UNESCO Schoolとして、SDGsを意識した取り組みを、カリキュラム内外で継続的に実施し、その成果の校内への浸透を進めていく。																						
			Model UN, HLAB, 英語ディベートコンテスト、大妻学院110周年記念英語プレゼンコンテスト、国内外の組織との交流プログラムの情報提供やその企画、実施を進め、その進行状況を共有化できるように校務運営会議で、報告する。また、外国語科、地歴公民社会科を中心に教科との連携を進め、プログラムへ参加する生徒と一緒にファンリティしていく。																						
	達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目2	目標	本校SGH構想調書にある「留学をしたり、将来、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合では、SGHプログラムの対象となった生徒については、全員がこうしたことを考える生徒になることを目標とする」に向けて、留学と海外大学(国際併願)を目指す生徒数を前年度以上に上げる。																					
			達成方法	留学経験者、海外大学進学者による「エヴァンジェリオン活動」を積極的に行い、留学と海外大学進学の意味を生徒から生徒に伝え、周知できるように、学校のウェブサイトでの発表、説明会の開催などを重ねていく。																					
		「トビタテ!留学JAPAN」、「筑波・UBC、香港大学、ハワイ大学・グローバルリーダーズ・プログラム」などのSGH校が目指す留学プログラムへのチャレンジをさらに積極的に生徒に薦め、そのための説明会、報告会などを積極的に実施していく。																							
項目3	目標	事務室とも連携し、英語での教務実務、海外大学進学、留学に必要な教育実務を英語で行うシステムと人材の育成をより一層進めていく																							
	達成方法	英語で教育実務を実践できる人材開発は、最も重要な点である。外部組織との十分な連携なども含め、文書の英語化、英語による校内の日常的なコミュニケーションの頻度を増やし、また、英文書類の作成をマニュアル化していく。																							
		Collaborating Japanese teachers and English native teachers for assisting with students writing various kinds of application essays for study abroad programs, transferring to international schools or local schools outside of Japan and applying to universities in foreign countries. Collaborating and communicating with Japanese teachers and English native teachers for assisting with the editing of official school correspondence with various universities, middle schools, and our educational partners.																							
		項目1		項目2		項目3																			
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度																		
	部署コード/平均	4.00	3.20	4.00	3.40	4.00	3.00																		
	1	4	3	4	3	4	2																		
	2	4	4	4	4	4	4																		
	3	4	4	4	4	4	3																		
	4	4	2	4	2	4	2																		
	5	4	3	4	4	4	4																		
<p>&lt;取組状況・次年度への課題など&gt;</p> <p>1. 項目1の「SGH_Community校」として、“Beyond School”を合言葉に、校外のさまざまな国内外の学校、大学、企業、組織と連携して、教育活動を進めていく点においては、大きく前進することができた。具体的には、ユネスコ・スクールへの正式加盟に向けて、チャレンジング・イヤーであった今年、これまでの取り組みを整理して、ユネスコ・スクール加盟申請書にまとめ、支援大学である玉川大学のサポートも受けて、最終的な申請ができる段階まで到達することができた。また、Model UN, HLAB, 英語ディベートコンテスト、大妻学院110周年記念英語プレゼンコンテストなどに、どれも非常に積極的に教員、生徒ともに取り組んでおり、賞を取るなど大きな成果を上げている。さらにその進行状況を共有化できるように校務運営会議で、報告することにも努めた。一方、課題としては、外国語科との連携は十分にできたが、それ以外の教科などの連携が不十分で、校内での連携の広がりがあげられる。</p> <p>2. 項目2の「留学と海外大学(国際併願)を目指す生徒数を前年度以上に上げる。」という点では、定量・定性、両面から、この目標を十分達成したと言える。留学する(した)生徒の数は、ターム(学期)、年間留学については、前年の3倍近い32名に上っている。さらに、トビタテ!留学JAPANでも、2名の生徒が最難関のアカデミック・ロングに合格するなど、留学する生徒のレベルの向上、留学を自分の将来のキャリアに役立てていこうという意識が非常に高まっている。また、海外大学への進学も昨年よりも増えている。課題は、こうした生徒の意識の大きなグローバル化に、校内全体のサポート体制が追い付いていないことがあげられる。</p> <p>3. 項目3の「英語による教務事務、実務ができる人材育成とその体制の整備」については、事務室と連携し、卒業生の英文書類関係を事務室でスムーズに発行できるようにしたり、校内でも、その体制を明確にするなど、一定の成果を上げた。ただし、この「英語で広報、英語で教務実務、英語で進路指導」を行うことのできる人材育成と体制の整備では、やはり人材の確保が非常に大きな課題と今後取り組む点である。教員の意識、学校の事務担当の方々の意識もまた非常に重要である。グローバル教育は、そのハード面で教育環境を英語で支えることができることができ、進んでいく。この点は、今後に向けて、さらに一層、学校全体で取り組むべきことである。</p>																									